

事業活動実績報告書

施設名	和光幼稚園
教育理念	「健康」と「表現」の領域を2大柱とし、子どもの心身ともに健やかな成長と、個性豊かな感性を養う
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	運動あそび
2 実施期間	令和 5 年 9 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 14 日

3 取組概要	<p>(取組日) 令和 5 年 4 月 ~ 令和 5 年 7 月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>〈1学期:園庭での運動あそびと室内あそび〉 (本事業前の子どもの姿)本園での運動あそびは、園庭またはホールで行われている。園庭においては、自由遊びの中で、園庭を駆け回ったり、大型遊具や鉄棒などで遊ぶ姿、三輪車やキックボードで遊ぶ姿、砂場で遊ぶ姿が多くみられる。また、週に1回の体操教室においては、マット運動あそびやドッジボール、跳び箱、平均台、縄跳びを用いた運動あそびも加わる。近年購入したラバーリングは、子ども自身が扱いやすく、運動あそびやごっこ遊びにおいて、さまざまな工夫をしたり創造性のあるあそびに繋がっている。コロナ禍以前は、運動あそび＝外遊び(園庭あそび)であったので、園庭での遊具は比較的充実している。それに比べ、ホールにおいては、室内遊びの遊具(おもまごと・大小ブロック・電車など)が多く、運動あそびに関しては、コロナ禍以降に購入した簡易的なアスレチック・ジムだけである。写真①②運動あそびをしている満3歳児(5月・6月)③年中児のホール遊び(6月)</p>	  
	<p>(取組日) 令和 5 年 9 月 ~</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>〈2学期:年少・満3歳児ホール遊び〉 ミラーマット:鏡の部分(乗っても割れません)を海や川に見立て、シフトブロックを並べて落ちないように渡っているところ。見立て遊びがより楽しかったようで、何度も橋を渡っていた。(写真:上) マット遊び:ミニ・アスレチックの下に、購入したマットを敷いたところ、子ども達がハシゴの橋の下をハイハイをしてぐり出した。今までは、外用のマットを安全のために敷いていたが、そこをハイハイでくぐる子はあまりいなかった。今までと同じ環境設定を行なった訳だが、カラフルな色で通常より長い寸法のマットが、子ども達のワクワク感を誘い、楽しそうに繰り返しくぐっていた。ハイハイの速さが速かったことから、子ども達の嬉しさが伝わってきた。(写真:下)ホールでは、今までは、座って遊ぶあそびが多かったが、遊びに動きが出てきた。</p>	 

(取組日) 令和 5 年 9 月 ~

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

〈2学期・年中児ホール遊び〉マット遊び:新しいマットに興味津々な子ども達。マットを敷くと、マットの上で遊び出したが、体操教室での経験がある年中児らしく、友達がマットを体験し終わるのを待つ子が出てきた。保育者が「順番を待ってるんだね」と声を掛けると、それに気づいた子ども達も列の後ろにつきだし、一人一人が順番に自分のしたいマットあそびを始めた。腹這いで進む子、スキップで進む子、側転をしてみる子、後ろ向きで進む子、ブリッジ、でんぐり返しetc.保育者が「素敵だねえ!」と話すと、「私を見て!」と言いながら、子ども達は自分で考えた進み方で、まるでランウェイを進むように、思いっきり楽しみながら表現をし始めた。並んでいる間に、自分なりの表現に思いを巡らしたのだろうと思う。とても楽しそうに、体を思いっきり使って表現していたことが印象的だった。



(取組日) 令和 5 年 9 月 ~

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

(2学期:年中児ホール遊び)トランポリン:年中児のクラスでは、ホール遊びの時間に、新しいトランポリンを2つ離して配置した。初めての遊具なので、1つのトランポリンに2人までというルールのもと(活発に動き出した年中児のぶつかり合いなどを回避するため)、遊んだ。きちんとルールを守って遊べたので、ケガもなく、子ども達は、いつもより高く飛べるトランポリンを何回も楽しんだ。飛び続けると体力を使うため、疲れると違う遊びへ移り、しばらく他の遊び(ブロック遊びなど)を楽しんだ後、またトランポリンへ戻り、十分に楽しむとまた違う遊びへ…といったような遊び方が多かった。ホール遊びに限らず、室内あそびでは汗をかくほど十分に体を動かす遊びはなかなかできなかったため、小さなスペースで思いっきり体を動かせるトランポリンは子どもの遊具として適していると思った。また、子ども達の縦の動きは普段あまり見られないので、さまざまな動きをする、身体を使う機会になると思う。



(取組日) 令和 5 年 9 月 ~

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

(2学期:年長児ホール遊び)トランポリン:年長児のクラスでは、トランポリンで怪我なく遊ぶには何人まで乗って遊べるのかを子ども達と一緒に考え、結果4人までということになった。初めは、4人が一人ずつバラバラに飛んでいたが、そのうち手をつないで息を合わせながら一緒に飛ぶことを楽しんでいった。大汗をかいて息が切れるほど遊んでいた。



(取組日) 令和 5 年 9 月 ~

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

(2学期:年長児ホール遊び)ミラーマット:年長児たちは、まずはミラーマットの上に乗って、鏡に映った下から映る自分の姿を見ていたが、そのうちミラーマットの上で体を動かしながら、そこに映る姿を見ていた(写真上:男児)。女児たちは、鏡を縦に置き、その周りにソフトブロックを置き、おままごと遊びの部屋の設定を楽しんでいた。皆で鏡に手を振ったりしていたが、そのうちに、自分の顔をまじまじと見て、舌の裏を見てみたり…自分の体の不思議や顔の表情などを確かめている姿があった。



(取組日) 令和 5 年 9 月 ~

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

(2学期:年長児ホール遊び)マットあそび:年長児たちは、新しいマットの色彩に注目している子が多かった。1つ1つの色を楽しみながら歩いて遊んだり、マットを鍵盤にして、メリーさんの羊の曲を「ミーレドレミミ♪」とゆっくり口ずさみながら、マットの踏む色(場所)を確認しながら音符に合わせて、時にはジャンプをしながら、体を使っての演奏を楽しんでいた(写真上:女児)。保育者と一緒に、マットに色を利用した「色鬼」を楽しんでいた(写真:下)。



3 取組概要

(取組日) 令和 5 年 10 月 ~

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

〈2学期:年少・満3歳児ホール遊び〉トランポリン:初めは一人ずつ乗っていたトランポリンも、お友達と一緒に楽しくジャンプすることが出来るようになった。体を動かすことが大好きな子ども達。トランポリンは楽しみながら体力も使うことが出来た。



(取組日) 令和 5 年 11 月 ~

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

〈2学期:年少児ホール遊び〉ミラーマット:初めは鏡の上に乗ること、そして映った自分に喜んでる姿が多かったが、自分のふとした表情や姿にさらに興味関心が出てきている様子が見られた。女兒は、はじめは立って見ているが、次第に鏡に近づき自分の表情を近くでまじまじと見ている。



3 取組概要

(取組日) 令和 6 年 1 月 ~ 令和 6 年 3 月

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

〈3学期:年中児ホール遊び〉トランポリン:トランポリンが混みあっていない時には、2つのトランポリンをジャンプ!保育者が距離を少し離し、「とんでわたる」などの色々な飛び方にも挑戦していた。



(取組日) 令和 6 年 1 月 ~ 令和 6 年 3 月

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

〈3学期:年中児ホール遊び〉マットあそび:自分たちでルールを考えて丸いネットの中へボールを投げ入れる遊びをしている。マットの色で距離が測りやすいので、距離も自分たちで決めながら遊んでいた。



(取組日) 令和 6 年 1 月 ~ 令和 6 年 3 月

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

〈3学期:年中児ホール遊び〉ミラーマット:ミラーを池に見立てて、落ちないように細い線の上を歩いていく。初めはゆっくりだったが、繰り返すうちにバランスを取りながら「あるいてわたる」ことが上手に出来るようになった。



効果検証報告書

施設名	和光幼稚園
教育理念	健康と「表現」の領域を2大柱とし、子どもの心身ともに健やかな成長と、個性豊かな感性を養

事業の区分(5領域)	健康 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現	
1 事業名	運動あそび	
2 事業概要	日々の保育や体操教室で活用できる教具を新たに購入し、子どもたちの運動能力のさらなる発達・向上を促進していく。	
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 室内あそび用として、運動あそびに関する新しい教具を導入し、運動能力の向上を促進する遊びを、日々の保育(活動や自由遊び)では各クラスの保育者が実施、体操教室では、講師が実施する。
	事業後	3についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 本園では、運動あそびは主に園庭で行っていたが、コロナ禍を機に園庭での密を避けるため、室内(主にホール)あそびにおいても運動あそびの充実を目指し、環境を整えてきた。ミニアスレチックやソフトブロックを導入し、子どもの運動能力のさらなる向上に取り組んでいる最中にある。コロナ後も、ホールあそびを、引き続き保育に取り入れている。今までは、ホールにおいては、室内遊びの遊具(おままごと・大小ブロック・電車など)が多かったが、今回、3種類の新しい運動あそびの遊具を取り入れたことによって、子ども達が室内あそびの活動中も体を動かす機会が増えた。また、今までのあそびの中ではあまりしてこなかった体の動きを行う機会も増えた。体操教室でも、新しい教具を取り入れ、サーキットあそびなどを行い、子ども達の運動能力の向上促進に繋げることができた。
計画時	4 事業のねらい	本園は、「健康」と「表現」の領域を教育の2大柱とし、子どもたちの心身ともに健やかな成長を促すとともに、個性豊かな感性を養っていくことを特色としている。「健康」の保育をより充実させるために、室内(主にホール)に新たな教具を導入し、運動あそびの環境を整え、子どもたちの運動能力の発達・向上を目指す。新たな教具を取り入れることで、今までに体験したことのない体の動かし方や持久力を高め、身体と心の発達を促進していく。
	事業後	4についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 幼児期は、動きを獲得していく大切な時期である。本園では、2022年に(幼児期に習得しておきたい36の動き)について園内研修を行い、その際に、本園の園児が幼稚園生活の中でどのような体の動きを行っているのか、またどのような動きがあまり行われていないのかを検証した。その検証をもとに、前年度は大きめのソフト・ブロックを購入し、「つみあげる」、「くずす」、「ささえる」、「はこぶ」の動きをする環境を整えた。今回の事業では、子どもたちの運動能力の発達・向上と、今までに体験したことのない体の動かし方をしたり、持久力を高めることを目的に、子ども達が楽しく全身運動ができる教具を選んだ。実際に、子ども達は自由遊びの中では自分の体に興味をもち、いろいろな遊びの中で主体的に体を動かす機会が増えた。体操教室でも運動あそびを体全体を使って楽しく活動していた。
事業後	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 室内(主にホール)に運動あそびに関する教具を新たに導入し、日々の保育に室内においても運動あそびを取り入れる マット：マットの上で移動したり、回転するあそびを行う。「手をつく」、「転がる」、「這う」、「前転する」の動きを経験する。特に「手をつくこと」は、単にからだを支えるだけでなく、動きに合わせて重心を変え、からだをコントロールする役割があると同時に、保護動作でもあり大きなけがから身を守ることに繋がる。 トランポリン：一気に大きな力を出すジャンプのあそびを行う。運動量も多い。2つ使うことで、上下の動きだけでなく、横の動きも体験できる。また、友達といっしょにジャンプすることで、より長い時間楽しみながら続けることができる。 ミラーマット：自分の姿を見たり、いつもと違う世界観を味わう。
	事業後	5についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 マット：園庭用のマットとは違い、清潔感があり、またカラフルな色彩が子ども達のやってみてほしい！という気持ちを引き出していた。マットの上での移動、回転するあそびはもちろんのこと、色の違いを鍵盤に見立ててマットの上をジャンプしながら演奏したり、色鬼をしたり、ボールを投げたり、と子ども達の想像力も駆り立てられ、いろいろな運動あそびに広がっていた。また、通常よりも距離が長いので、運動する量も少し増えた。 トランポリン：今までは、トランポリンは体操教室の際に園庭で使用のみだった(重く扱いにくかった)が、ホール遊びで自由な時に自由に飛べる環境を作ることができ、子ども達もジャンプあそびを大いに楽しんでいった。(幼児期に習得しておきたい36の動き)の中の「とぶ(垂直に)」、「とんでわたる」の動きができることと、初めは1人ずつ飛んでいた子ども、友達と一緒に飛ぶ楽しさを味わうことで、手をつなぎ友達と一緒に長く飛び続けることもできるようになる子もいて、持久力を高めることに繋がっている。 ミラーマット：自分の姿を多面的に映し、体の部分や動きを確認しながら遊ぶことができていた。見立てあそびをすることで「あるいてわたる」にも繋がっていた。

計画時

<p>6 環境構成</p>	<p>室内あそび(主にホール遊び)の際に、周りの安全環境を配慮した位置に、マット、トランポリン、ミラーマットなどを配置し、年齢にあった運動あそびを取り入れた保育を行う。日々の自由あそびの中でも、これらを設置して、子どもたちが運動あそびをする機会を増やし、運動能力のさらなる向上を目指していきたい。</p>
---------------	--

事業後

<p>6についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>自由あそびの中で使用する際は、周りの安全環境を配慮し、マット、トランポリン、ミラーマットを設置した。年長児は、自分たちのあそびの中に取り入れたい場合もあったので、その際は安全に配慮しながら保育者が手伝い、子ども達と一緒に移動した。年齢別での配慮事項としては、トランポリンは、楽しくて大勢集まりすぎてしまうので、1つのトランポリンに3人ずつまでなどとルールを決め、事故を防いだ。新しい運動教具を入れたことで、室内の自由遊びでも、汗をかくほど思いっきり体を動かすことができ、時にはサーキットあそびを設定し、子どもたちが運動あそびをする機会を増やすことができた。</p>
--------------------	---

<p>7 期待される効果 児童の姿</p>	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <hr/> <p>運動あそびで育つスキル・体力・能力として、以下のことが期待される</p> <p>マットあそび 乳幼児期に必要な4つの運動スキル → 移動系運動スキル・平衡系運動スキル 身体を動かす10の体力 → 筋力・平衡性・柔軟性・巧緻性 運動時に育つ能力 → 身体認知力・空間認知能力</p> <p>トランポリン 乳幼児期に必要な4つの運動スキル → 平衡系運動スキル 身体を動かす10の体力 → 瞬発力・平衡性・リズム 運動時に育つ能力 → 空間認知能力</p> <p>ミラーマット：自分や友達といっしょに鏡を眺めて遊ぶ中で、身体を確認したり、体の動きや表情を楽しんだりする姿。</p>
---------------------------	---

事業後

<p>7についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>【乳幼児期に必要な4つの運動スキルについての検証】 マット移動系運動スキル:あるく・ふむ・とまる・はしる・はねる・とびあがる・はう・ささえる 平衡系運動スキル:たつ・たちあがる・かがむ・しゃがむ・すわる・ねる・ねころぶ・おきる・おきあがる・まわる・まわす・ころがる トランポリン平衡系運動スキル:たつ・たちあがる・かがむ・しゃがむ・すわる・まわる・ころがる・とんでわたる ミラーマット平衡系運動スキル:たつ・たちあがる・かがむ・しゃがむ・すわる・まわる・あるいてわたる 新しい教具での子ども達の動きを、運動スキルの中の具体的な動きと照らし合わせてみると、以上のような動きを実際に行っていた。これらの動きを日常的に取り入れられたり、経験を重ねることで、1年後、2年度、3年後の子ども達の運動能力のさらなる向上に繋がっていくのではないかと考えている。身体を動かす10の体力についての、筋力・平衡性・柔軟性・巧緻性・瞬発力・リズム、運動時に育つ能力についての、身体認知力・空間認知能力においても同様で、これからの園生活の中でこれらの動きを経験できる環境を整えることができたことが大変重要であるとする。</p>
--------------------	--

<p>8 効果検証 総括</p>	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <hr/> <p>本園は、体操教室や乾布摩擦、マラソンを保育に取り入れ、「健康」の領域に特色をもった教育に長年取り組んでいるが、ここ数年はコロナ禍の影響もあり、子どもの体力や運動能力の低下を懸念する状況にあった。本園では、運動あそびは主に園庭で行っていたが、コロナ禍を機に、室内(主にホール)あそびにおいても運動あそびの充実を目指し、環境を整えてきた。園内研修では、(幼児期に習得しておきたい36の動き)をもとに、本園の園児が園生活や環境において、習得しにくい動きを検証し、今年度は、マット、トランポリン、ミラーマットを導入し、子どもの動き、運動能力のさらなる向上に引き続き取り組んだ。幼児期は、運動能力のプレゴールデンエイジにあたり、多種多様な動きを経験することで神経系が発達していく、という大切な時期である。新しい3種類の運動教具を購入したことで、身体全体を使った色々な運動ができるような環境を整えることができ、日常のあそびの中で子ども自身が主体的に運動あそびを行い、何より、生き生きと楽しんで体を動かすことが増えた。この取り組みは、子ども達が経験を積むことで、さらなる子どもたちの成長と運動能力の向上に繋がるものだと考えており、引き続き子ども達の運動する機会を増やしていきたい。また、この事業は、運動にかかわるものだったので「健康」の領域と申請していたが、効果検証としては、「健康」のみならず、協調性(人間関係)、協同性、思考力の芽生え、言葉、表現・・・と、あそびの中での運動は、多岐にわたり子どもの成長を促す効果をもたらしていることを実感している。子ども達がどのように興味をもち、主体的にどうかかわっていくかを考えながら、コロナ禍の影響を受けた子ども達が、普段の生活の中で、本来経験し成長発達へと繋げていくはずだった環境を今後も整え続け、さらなる運動能力の向上に繋げていきたい。</p>
----------------------	---